

第2回 FMくらら857放送番組審議会議事録

1. 開催日時 平成27年12月22日(火)10時30分～11時15分

2. 開催場所 ケーブルテレビ株式会社

3. 委員出席

審議委員総数 8名

出席委員数 6名

■出席委員(敬称略)

早乙女 洋 会長(栃木市総合政策部長)

岸 英 司 副会長(栃木商工会議所事務局長代行 総務課長)

松本 静 男 委員代理(栃木市教育委員会教育総務課長)

茅原 剛 委員(栃木市観光協会専務理事 栃木市産業振興部長)

野本 陽 一 委員(栃木警察署長)

増山 政 廣 委員(栃木市消防本部消防長)

■放送事業者側出席者

高田 光 浩 (ケーブルテレビ株式会社 代表取締役)

小林 康 行 (執行役員 技術部部長 兼 館林局長)

大川 進 (コンテンツ部課長)

石田 美也子 (コンテンツ部FMチーム主任)

4. 議題

番組の放送内容について

開局後の運営状況に関する報告に続き、審議対象番組について各委員より放送聴取の感想・意見・疑問点等を挙げていただき、他の委員と意見を交わす形式にて議事を進行した。必要に応じて放送事業者側出席者が説明・回答した。

5. 審議内容

- ①審議番組「とち介PのHAPPY TOWN(平成27年11月11日放送)」
(事務局) この番組は平日11時に放送中の栃木市提供番組。審議番組は、
栃木市民の歌の作詞をした久石麻衣さんが電話で生出演した回。
(事務局) なお、本日も欠席の委員より、「コミュニティ放送局とは思えないクオリティの高い放送で驚いている。地元の話題等で知っては

いても詳しくは知らなかったことを聴くことができ、面白い内容。市民からの情報や意見等がたくさん寄せられないと番組制作は難しい。そのためには、多くの市民に日頃から聴いていただけるようにすること。これからも市民に愛される放送制作を期待したい」というご意見をいただいた。

- (委員) 審議番組は、栃木市が依頼して平日毎日、各課から主に若手職員が出演し業務内容等を紹介している。この回は市歌の紹介。
- (委員) 市の情報を提供していただけるのはありがたい。産業振興部の職員出演の際、パーソナリティの対応が適切だった。農林課の主催する行事に自ら参加し話題に盛り込んでくれた。勉強熱心。緊張して何を話そうか迷うところを、パーソナリティがうまくフォローしてくれている。まだ不慣れではあるが、市民に提供したい情報をうまく出せていて満足。
時々栃木弁が出るが、パーソナリティは標準語の訓練をしているのか。栃木の方言、アクセントをあえて隠さず、地で行くのが良いのか標準語でいくのか。聞いていて放送上どうなのかと思うこともある。電話レポートは面白い。
- (委員) 新しい市歌の紹介番組なのに、せっかくの歌が流れていなかったのは残念。発表前と言え、少しでも流せば良かった。
- (委員) 電話出演時の音声クリア。まるでスタジオにいるよう。機械の性能が良い。
- (委員) 現場からのレポートは災害でも使えるので良い。
- (委員) 職員も日頃から滑舌よくといわれているが、話し方、伝え方を学ぶべきだと思った。

②審議番組「くらは857便TAKEOFF（平成27年11月放送分）」

- (事務局) 仕事終わりの時間にゆっくり聞ける19時台のプログラム。地域で活躍する人をゲストに迎えてのトークがメイン。
- (委員) 固有名詞が明確でなく、わかりづらい点があった。放送する際には気を付けるべき。いろいろな団体とコラボしながら街を元気にしていただきたい。
- (委員) 親近感が湧く点では興味深い。公共の電波に乗る部分と、身内感の兼ね合いが難しいところ。メリハリが大切。
- (委員) 掛け合いのネタ探しは大変そう。惹かれるものを織り交ぜながら続けていくのは大変だろうが、リスナーを楽しませる視点で頑張っていたきたい。
- (委員) 会話がスムーズで良かったが時間がちょっと長い。話が延々と

続いているイメージでもたつき感があった。

(委員) 曲をフルコーラスを入れると話が途切れてしまう。身内感が強く、日頃の世間話という感じ。慣れが出てしまっているのか。

(事務局) 音量差やコツコツという雑音が気になる時があった。パーソナリティはゲストに対し、事前にマイクの位置を注意するなどの配慮。

③ FMくらら857に関してのご意見、ご質問

(委員) 12月31日の放送プログラムは

(事務局) 31日は日中通常編成。21時から23時まで音楽番組。23時から24時30分までコエドスタジオから年越し生放送。途中、神社等からの生レポートを予定。

(委員) 市民の評価として掲示板にはいい評価と共にマイナスの評価もある。直接市民から番組に対する意見があれば聞きたい。人気の番組等について、現段階でどの程度把握できているか。

(事務局) 電話やメール、お手紙で様々な声をいただく。主に人名や地名の間違い、トークの質に関するもの。適時、パーソナリティに情報を展開している。また、開局した頃はバラエティに富んでいたが、最近は若い世代の曲が多いとの声があった。どの時間帯にどんな人が聴いているかを考慮して改善していきたい。

(委員) パーソナリティがたくさんいるが、それぞれの出演頻度は？

(事務局) 様々な事情で、出演頻度には個人差がある。

(委員) 栃木市南部の方が放送が入りづらい。市にも聴取方法の問い合わせあり。アプリ等を紹介している。

(事務局) 危機管理課と情報の共有はしている。ケーブルテレビによるFMサービスやスマートフォンアプリやパソコンからの聴取方法のご案内をしている。

④ 放送番組審議会の次回開催について

次回会議を2月に開催することを全員一致で承認

6. 審議機関の答申又は意見の概要の公表

FMくらら857ホームページに掲載(平成28年1月掲載)